

エジプト・アレクサンドリア市は、エジプト最北端に位置する主要都市で地中海に面している。紀元前300年代にマケドニアのアレクサンドロス大王がこの地を征服したことからアレクサンドリアという都市名になったと言われている。かつて同市には世界最古の図書館や、100呎を超える高さの灯台があったと言われており、「アレクサンドリアにないものは雪だけ」と言われたほど栄えていた都市である。

ボルグ・エル・アラブ国際空港は、アレクサンドリア市の南西約40kmほどの所に位置し、サウジアラビア、ヨルダン、トルコなどの近隣諸国向けの空の玄関口としての役割を担っている。航空需要の高まりに伴い既存ターミナル（T1）だけでは手狭となり、今回のプロジェクト

海外建設協会

プロジェクト便り

◆エジプト

ボルグ・エル・アラブ国際空港拡張事業

信頼と絆強めた難プロジェクト

大成建設

トであるターミナル2の建設が国際協力機構（JICA）の有償資金協力で、工事は大成建設と現地最大手の建設会社オラスコムによる共同企業体（JV）によって行われることとなった。2020年2月に着工したが、折しも新型コロナウイルス

がエジプト国内でも猛威をふるい始めていた時期であり、共同企業体のエンジニアや現場内の作業員にも感染者が続出した。そのため、2カ月後の同4月に発注者（エジプト空港公社）および当プロジェクトの設計者であり発注者コンサルタントである日本空港コンサルタンツとの合意のもと、3カ月間ほど工事を中断するという苦渋の決断をした。

同6月下旬に工事を再開したものの、作業員は集まらず、材料も高騰し、かつ不足するという状況が20年末頃まで続いた。

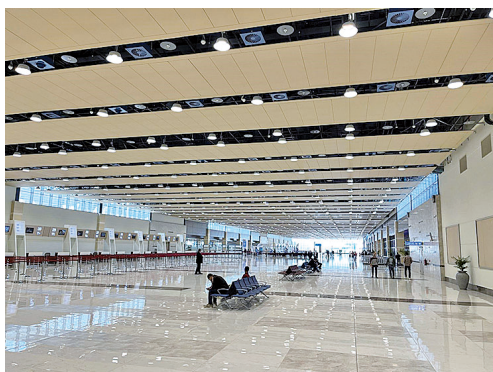
22年2月にはロシアがウクライナ侵攻を開始し、エジプトは主食であるパン用の小麦をロシア、ウクライナから8割近く輸入していたため、すぐに国内物価が高騰し始めた。また従来より輸入依存型の経済であるため、輸入物価の高騰も招



遠景（車寄せ）

コロナ禍、政情不安乗り越え成功裏に

出発チェックインホール（40チェッキングカウンター）



き、外貨準備高が急速に減少し始めた。エジプト中央銀行は、外貨流出を防ぐために実質的な輸入禁止となる措置を素早く取った。

その結果、当プロジェクトは、海外から調達する予定にしていた建材や設備機器などが1年近く輸入できないという大変厳しい状況に直面した。現場の作業は、ちょうどエジプト国内の材料で工事を進められる土工事・躯体工事から、外壁パネルや設備機器など、海外から調達した資機材を据え付ける工事の段階

に移ろうとしていた時期だったため、工事の進捗に著しい影響を与えた。

何とか海外調達資機材の早期輸入を図ろうと奮闘していた折、在エジプト日本国大使館、JICAから、ひとかたならぬご支援、お力添えを賜り、他のエジプト国内の建設工事プロジェクトに比べ、はるかに早い時期から輸入を再開することができた。

その後、輸入は再開されたものの、アレクサンドリア港には留め置きされている物資があふれ、当プロジェクト用の輸入資機材の通関ができない、滞留費用が発生するなどの損害を受けたが、発注者（エジプト空港公社）および日本空港コンサルタンツのご理解、ご協力を賜り、改めて完成期日を調整することで合意ができた。

23年10月にはエジプトと国境を接するイスラエルにてイスラエル・パレスチナ紛争が勃発し、さらなる物価の高騰や一時的な治安面での懸念が増幅したが、海外調達物の輸入等はおおむね完了していたので施工への影響

は最小限に抑えることができた。

20年2月に着工して以降、コロナ禍やロシア・ウクライナ侵攻、イスラエル・パレスチナ紛争など、通常なかなかり得ないような事象、国際情勢に翻弄（ほんろう）されながらも24年10月末に無事に、無事故で工事を完了し、発注者への引き渡しを終えた。

これは、プロジェクトに直接携わった発注者（エジプト空港公社）、日本空港コンサルタンツ、大成建設・オラスコムJVが、工期中のさまざまな問題を一緒に乗り越えて行ったことで、互いの「信頼と絆」を強め、この難プロジェクトを必ずや成功裏に完成させるという、一つの共通の目標に向かって一丸となつてまい進したこと、さらには在エジプト日本国大使館、JICA、エジプト民間航空省ほか、日本・エジプト両国政府機関による多大なるご支援、ご協力のたまものであり、この場をお借りして心より厚く御礼申し上げます。（国際事業本部営業部・小野里陽）

